

---

**Ca 受容体作動薬注射剤の変更によるスタッフのメンタルヘルスの検討**

---

医療法人衆和会 長崎腎クリニック

○山口 忍 高木志緒理 植木秀一 白井美千代 河津多代  
橋口純一郎 船越 哲

**【背景】**

upacalcet(ウパシタ)は etelcalcetide(パーサビブ)に比べ、投与時に専用のアダプター接続が必要となり、スタッフの業務が煩雑化することが考えられる。

**【目的】**

ニードルレスであるパーサビブからアダプターを接続するウパシタへ変更する前後でのスタッフの業務ストレスを比較する。

**【対象・方法】**

透析室スタッフ 14 名を対象に職業性ストレス簡易調査票を用いて変更前後のストレス変化を定量した。

**【結果】**

簡易調査票を用いウパシタ投与前後のストレスを比較した結果、仕事量3.03→3.18、仕事の質3.45→3.55とスコアは高い傾向にあったが、全ての項目において有意差は認められなかった。ストレスの内容は「準備作業に時間がとられる」、「注射薬剤の取り違えが不安」などが聞かれたが管理可能であり、変更前後 3 ヶ月のアクシデント・インシデント件数に差はなかった。

**【考察】**

アダプターを必要とするウパシタは、パーサビブに比べてストレスを増加させる要因とは断定できず、スタッフ業務の煩雑化に繋がらないと示唆された。